

開催日：令和2年6月9日（書面審議）

出席委員：（承諾書提出者 委員14名中13名提出）

小松史俊会長、山崎弘道委員、畠山和男委員、黄淳一委員、秋山賢一委員、間湊文彦委員、山角駿委員、大塚ゆかり委員、千野由貴子委員、横山能委員、板山俊介委員、小林正治委員、神吉まゆみ委員

議 事：

1 障害者福祉専門分科会臨時委員の変更について（報告）

事務局：臨時委員1名の退任に伴う、新任の臨時委員1名の報告を行った。

2 障害者福祉専門分科会における調査審議について（報告）

事務局：甲府市社会福祉審議会委員長より依頼された調査審議事項について報告を行った。

調査審議事項

・障害者福祉専門分科会に対して

「障がい福祉計画の策定及び評価に関すること」

・障害者審査部会に対して以下3事項

1. 身体障害者手帳交付申請者の障害程度に関すること
2. 身体障害者の診断書作成に伴う医師指定に関すること
3. 育成医療及び更生医療に係る医療機関指定に関すること

3 計画部会の委員の指名について（報告）

事務局：障害者福祉専門分科会委員の中から8名の委員が、甲府市社会福祉審議会委員長より、計画部会の委員に指名されたことを報告した。

4 「甲府市障がい者福祉計画」の策定について（審議）

事務局：「甲府市障がい者福祉計画」の策定について、以下の4項目について説明を行い、事務局が示した考え方で次期計画を策定することについて各委員から書面にて承諾を得た。

1. 計画策定の概要について
2. 甲府市の現状と課題について
3. 次期計画の方向性について
4. 計画策定スケジュールについて

承諾に付された意見等

A 委員：・「甲府市障がい者福祉計画」に「コロナウィルス対策」という用語が出てきますが、これは「新型コロナウイルス対策」の方が適切かと思われます。

・新型コロナウイルス対策に関して現場で未だに対応策を打ち出していない課題が、「万一介護者が感染して介護不能となった場合に、障がい者本人を誰が見るか」ということです。また、発達障害でもとくに自閉症性障害と知的障害を併せ持った方々が感染した場合も対応

に苦慮するものと思われます。

・現在は、医療的ケア児のほとんどが特別支援学校に就学されていらっしゃると思います。しかし、他地域ではインクルーシブ教育が進み、地元の小・中学校就学される子どもさんが少なくありません。そのためには、医療的ケアの体制整備（看護師の常駐も含む）が必要です。

B 委員：・「現行計画の進捗状況」に於いてあげられた課題について

数値目標を見直すというだけでなく、十分に活動できていないサービス提供事業所のスキルアップを目指した研修や指導等を行政が旗振り役となって行い、活用されやすい仕掛けを具体的に検討することも併せて行ってもらいたい。

また現行計画策定の際に「福祉施設の入所者の地域生活への移行」について計画にはきちんとどうなるべきか書かれていたにも関わらず、評価する者が結果の数字の意味をわからずに施設＝障害者の生きる場所とも捉えられるような前時代的な評価（A評価）として市側が見直していないことは遺憾である（この件はこれまでも再三指摘をしているが）施設の地域移行をより具体的に明示しかつ評価する側も「どうしなければならないのか」をはっきり提案するような形にして計画に盛り込んでもらいたい。

・新型コロナ対策として新しい生活様式を障害者支援に組み入れていくことはとても大変なことと思うが、官民が協働してより良い案を模索していくことが出来ればと思っている。

C 委員：・甲府市の障がい福祉の現状と課題の中で、計画相談支援の受け入れ体制の拡充とあり、また成年後見制度の利用促進なども上げられている。ニーズの増加にどうやって受け手を増やしていくか、具体的に計画の中に盛り込んでいく必要がある。

資 料：

- ・ 障害者福祉専門分科会及び各部会委員名簿
- ・ (障害者福祉専門分科会) 専門分科会における調査審議について
- ・ (審査部会) 専門分科会における調査審議について
- ・ 計画部会の委員の指名について
- ・ 計画部会委員名簿
- ・ 「甲府市障がい者福祉計画」の策定について
- ・ 別紙 書面審議承諾書